

(公財) 神戸大学六甲台後援会だより (52)

経済経営研究所の設立百周年を迎えるに当たって

残念ながら神戸大学には附置研究所が、経済経営研究所しかありません。その研究所は、1919(大正8)年に設立された神戸高等商業学校の商業研究所に始まります。したがって、来年10月は設立百周年を迎えることになります。それもあつて昨年から研究所では、記念事業を実施するための募金活動と研究所の存在意義を周知するための講演会やシンポジウムなどを繰り返し展開しています。その第1回は、平成28年11月の「べっぴんさんの経営学」からはじまり平成29年1月の「出光佐三の企業家精神」、3月の「AKB48の計算社会科学」など。平成29年には、他に6回に亘る公開シンポジウムを実施しています。かつてないユニークなテーマを含み、出席された凌霄会員の皆さんにも非常に興味深い展開になっていたと思います。

六甲台後援会からも百周年記念事業のために、29年度に500万円寄附し、30年度も500万円寄附することになっています。皆さんとご一緒に、記念事業がわが国における研究所の存在意義を今後益々明確にして頂くのに役立つことを願わずにはおられません。

この機会に、研究所の設置から今日までの歴史をごく簡潔に振り

返って頂き、これからの記念事業にもできるだけ多くの方が関心を
持って下さればと念じます。まず、この研究所の前身、商業研究所
が創設されるきっかけになったのは、神戸高商時代の坂西由蔵先生
による調査課の設立です。坂西先生は神戸高商の教育・研究体制の
充実のために、商業経済に関する新聞の切り抜きだけでなく、色々
な資料の整理・保存と、各種会社の営業報告書や各調査機関の報告
書・資料等の収集などを調査課（のちに部となりました）の仕事と
されました。当時、神戸高商は大学昇格のための尽力をしている時
でした。その当時、幸いなことに、兼松商店内の兼松翁記念会から
神戸高商に兼松記念館の建設および研究資金寄附の申出がありまし
た。そこで水島鍔也校長は、坂西教授などを中心にする5名の教授
を委員にして兼松記念館を研究所として運営できる組織の確立を図
られました。これが今でも研究所が兼松記念館の建物の中にあり、
兼松房治郎翁の胸像が建立された所以でもあります。なお、これと
関連して、平井泰太郎教授が二度に亘ってアメリカでの研究で着目
された経営事務の電算機処理を日本に導入するために、1941年
に研究所内に経営計算研究室を開設されました。この経緯について
は「神戸大学百年史、通史Ⅰ」の253頁く255頁に記述されて
いますが、ここでは、日本の大学で最初に取り入れられた電算機が
置かれ、後に、神戸大学に日本で初めての経営機械化講習所が開設

されたこと、しかも、平井教授がいつも自慢されていたように、かつて上野でいわゆる官軍と幕府軍の戦いが展開されていたときも、福澤諭吉が慶応義塾の講義を止めなかったのと同じで、この講習所の授業は太平洋戦争で日本が敗北した日にも開講されたとのことでした。しかも、この研究室は1944（昭和19）年8月には、官制によって神戸商業大学附置の経営機械化研究所になり、しかも同年、政府は商業という名称が適切ではないとして、神戸商業大学を神戸経済大学と改称することにしました（なお、この時、東京商科大学は産業大学に、また全国の高等商業学校は全て経済専門学校と改称）。

経済経営研究所は、昭和28年、大学が新制大学に変化したとき、国立大学に附置されている社会科学系研究所としては、東京大学の新聞研究所、社会科学研究所、一橋大学の経済研究所などごく限られた研究所だけでした。

また、兼松株式会社関連のご支援として2つだけは忘れてはいけません。第1は、その後の変遷にも拘らず研究所の活動を支援する財団として昭和15年に財団法人兼松貿易研究基金を設置され、その理事長には原則として歴代社長がご就任されてきました。なお、これは平成24年に公益財団法人になりました。第2は、大変なご寄附を頂いた元兼松株式会社専務で株式会社ダイフクの社長・会長をつとめられた益田乾次郎さんです。益田さんは、兼松からの基金にな

っていました南満州鉄道株式会社と兼松羊毛工業株式会社の株式が、前者は敗戦とともになくなり、後者も閉鎖されたため基金としての役割を果たせなくなっていることを残念に思われ、ダイフク会長退職金1億円に利子を加えて私たち六甲台後援会にご寄附を頂きました。その後、益田さんは学生会館南のマンション建築予定地を、大卒のためにダイフクの所有株30万株で購入して頂きました。しかも、このとき株価が上昇し、土地購入をしても1億5千万円程余裕ができた分は、工学部の研究助成基金としてご寄附頂きました。

なお、商業研究所は昭和19年に大東亜研究所と改称され、昭和20年に経済研究所となり、平井先生が設立された経営機械化研究所（昭和19年設立）と昭和24年に統合され、経済経営研究所になりました。その意味では、経済経営研究所は諸先輩の実に貴重なご配慮と努力によって支えられてきた日本でも数少ない歴史をもった社会科学系研究所です。百周年記念事業募金は昨年10月末までの寄附金総額3、256万円余の内、53%を凌霜会員の皆さんから賜っているのも、卒業生の皆さんが研究所の活動を評価されてのことです。目標は7千万円とのことです。今後共、皆さんの篤いご支援をお願いいたします。

今回も多くの皆さんからご寄附を頂き有難うございました

4月号に掲載させて頂ける多くの皆さまのご寄附を頂きました。前号掲載後から1月26日までに合計227万8、255円になり、これで平成29年度中の受入額は合計1、223万4、963円になりました。以下ご寄附を頂いた皆さまのお名前を金額別に報告させて頂きます。

中村義男様（昭59法）、川坂陽一様（昭52経営）、山本透様（昭53経営）から各3千円、薄木公平様（平26法学研究科）から5千円、市野貴之様（昭59法）、服部茂久様（昭35経済）、藤原達也様（昭38経営）、森本隆様（昭57法）、川添信様（平26経営学研究科）、深野裕一様（昭59経営）、木村正則様（昭50経済）、藤原潤一様（昭46法）、友澤雅靖様（昭56経済）、岩井政道様（昭62法）、青木幸治様（昭57経済）、高城和憲様（昭45経済）、岡口憲義様（昭54法）、太田義人様（昭51経営）、柳本保武様（昭33経営）、中埜晶夫様（昭51経済）、多田葵様（平27法）から各1万円、稲垣雅彦様（昭40経営）、本間健一様（昭34経済）から各2万円、山田秀人様（昭38法）、正司健一様（昭54経営学研究科）、山崎正俊様（昭43経済）、大野義也様（昭37経済）から各3万円、中村優太様（平27経済学研究科）、杉山伸幸様（昭51経済）、竹川清様（昭51経営）、長岡靖裕様（昭35法）、宮本又郎様（昭44経済学研究科）、矢崎和彦様（平17MBA）、水島昇様（昭51法）、渡会武嗣様（昭30経営）、森安陸夫様（昭31経済）から各5万円、森

地高文様（昭56経営）から7万円、森口隆宏様（昭42経済）、松岡三郎様（昭35経済）、熊谷清様（昭39経営）、稲垣滋様（昭45経済）、広瀬隆明様（昭52経営）、奥野吉矩様（昭35経済）、井上聰一様（昭28）、曾根進様（昭34経営）、堀・郎様（昭32法）から各10万円、宮野淳様（昭42経営）から20万円、昭47法・経済・経営3学部の20回同期会（代表岡部幸夫様）から31万4、255円をご寄附頂きました。厚くお礼申し上げます。

なお、毎回お願い申し上げます寄附金の送り先は左記のとおりです。六甲台後援会へのご寄附につきましては税法上の特別措置のある証明書付きの領収書をお送りしています。どうかよろしくお願い申し上げます。

◎銀行送金の場合（銀行からの連絡が遅く、領収書送付が遅れない

ようにするため、お葉書でも電話・FAXでも結構ですから、送金のことについて事務局にご一報ください）

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合（通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください）

口座番号 00980 | 9 | 116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-1-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX(078)861-3013

E-mail: rokkodaifund@kobe-u.com